

# 地震大国日本で なぜ原発を止められないのか

講師：青木 美希さん

ジャーナリスト



日付	2月8日(土) 10:00~12:00
会場	Zoomによるオンライン開催
参加人数	30人 参加費 800円
担当委員会	平和委員会

石破内閣が閣議決定した第7次エネルギー基本計画は、「原発を可能な限り低減していく」を削り、「最大限活用」と新たな原発建設を明記し、原発回帰へと転換した。「再エネは最優先で取り組む」も削除された。世界の流れに逆行し、またも原発推進に舵を切るのはなぜか。本セミナーは、著書『なぜ日本は原発を止められないのか』（文春新書）が話題を呼んでいる、ジャーナリストの青木美希さんを招き、学んだ。福島の実状なども動画で共有し、「私たちに何ができるか」を考え合った。

## ・原発を優先してきた、エネルギー政策の構造問題

青木さんによると、太陽光パネルのシェアはかつて日本が世界トップだったが、2008年ごろ中国に抜かれ、その後、世界に大きく立ち遅れた。「ニューサンシャイン計画」という国家プロジェクトが断ち切られ、原発に予算が回され、部署ごとなくなった。私たちにできることは、「歴史を学び世界の情勢も見て、同じ轍を踏まないこと」と青木さんは力説する。

## ・24時間、365日、水と電気を供給し続けられるのか

原発が、普通の発電所と違うところは、常に冷やさなくてはいけないこと。使用済み燃料もすぐには冷えないため、原発を止めた後も冷やし続けなくてはならない。災害大国日本で、水と電気を常に供給し続けることは可能なのか。さらに、原発の耐震性は、能登半島地震（昨年1月）のような局所的な隆起には対応していない。「活断層」の存在を含め、地震のメカニズムは未解明なことが多い。

## ・原子カムの利権と相互依存

何かあれば、日本社会を破滅させかねない重大事故を招く恐れがある原発を、なぜ止められないのか。「政、官、産業、学、メディアの『原子カムラ』が大きく関係している」と青木さんは説明する。変えなければならないのは政治であり、原発が動けば動くほど一部の人間だけがもうかるしくみ、競争も生じない不公正、不公平なしくみを変えなくてはならない。イタリアでは、国民投票で、原発への交付金をやめた。

選挙での投票行動や、地産地消のエネルギーづくりなど、政府と共に地域（地方自治）・足元から変えていくことが求められているなど、主権者である私たち一人ひとりが考え、行動する大切さを、交流でも深め合った。感想では、人生をかけて原発問題を追いつける青木さんの姿、熱意と粘り強い取材への感動も多く寄せられ、課題と共に希望を共有する、あたたかなセミナーとなった。